

令和6年度 放課後等デイサービス 事業所職員自己評価表

＜エルロン二日市＞

() = %

配布 10 回答 10 回答率 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	感想・意見・提案
環境 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	10 (100)				
	②	職員の配置数は適切であるか	10 (100)				
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	9 (90)	1 (10)			
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか	7 (70)	2 (20)		1 (10)	常勤スタッフが毎月会議で討議している
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	10 (100)				
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8 (80)	2 (20)			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1 (10)	2 (20)	3 (30)	4 (40)	・第3者の機関が選定できない ・依頼しても不要（義務ではない）と言われ断られる
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	9 (90)	1 (10)			
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	10 (100)				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7 (70)	2 (20)		1 (10)	アセスメントのチェック項目は利用している
	⑪	活動内容の立案をチームで行っているか	7 (70)	2 (20)		1 (10)	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9 (90)			1 (10)	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6 (60)	3 (30)		1 (10)	ケースによる
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	8 (80)	2 (20)			
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5 (50)	4 (40)		1 (10)	・日による ・パート職員のシフトに合わせられな時もある
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7 (70)	3 (30)			
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	10 (100)				
	⑱	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	10 (100)				
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	5 (50)	2 (20)		3 (30)	
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	9 (90)	1 (10)			
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	9 (90)	1 (10)			

関係機関や保護者との連携	②②	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	7 (70)	1 (10)		2 (20)	・都府楼南の利用者に限る ・個人情報の問題をクリアできる場合は可能
	②③	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3 (30)	5 (50)		2 (20)	・依頼がない、あればぜひしたい。 ・求められることが少ない
	②④	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5 (50)	2 (20)	2 (20)	1 (10)	
	②⑤	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		7 (70)	2 (20)	1 (10)	・公園程度 ・機会が少ない
	②⑥	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	6 (60)	2 (20)		2 (20)	
	②⑦	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	10 (100)				
	②⑧	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1 (10)	5 (50)	1 (10)	3 (30)	・必要時に行う ・ご希望がない
	②⑨	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	9 (90)	1 (10)			
保護者への説明責任等	③⑩	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9 (90)	1 (10)			
	③⑪	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		6 (60)	3 (30)	1 (10)	・(自宅へのお送りをしていないので)お迎え時に実習先の話など共通の話題で互いに情報交換できるような話の方向をむけている。 ・保護者様の方が忙しいからと開催には消極的
	③⑫	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9 (90)	1 (10)			
	③⑬	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	10 (100)				
	③⑭	個人情報に十分注意しているか	10 (100)				
	③⑮	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	10 (100)				アドボカシーのエッセンスを取り入れている

	③⑥	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1 (10)	2 (20)	5 (50)	2 (20)	・コロナ以来機会が乏しくなった ・見学のご希望は受け入れていい
	③⑦	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	10 (100)				
非常時等の対応	③⑧	新型コロナウイルス等の感染予防に対し所内の対策は適切であるか	10 (100)				
	③⑨	就業する職員の感染症等発症に対して配慮は適切である	10 (100)				
	④⑩	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	10 (100)				
	④⑪	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	10 (100)				
非常時等の対応	④⑫	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	9 (90)	1 (10)			
	④⑬	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5 (50)	2 (20)	1 (10)	2 (20)	アレルギー児の利用がほぼ無い
	④⑭	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	9 (90)			1 (10)	
追	④⑮	世情、また時流であるデジタル化を推奨する働きかけが多くあるが、連絡帳、請求書等に導入（メールで伝える）することに賛同するか。 <u>賛否とともに各自意見欄にその考えを記入すること。</u>	4 (40)	2 (20)	1 (10)	3 (30)	・内容による。災害時などの閉所時は一斉メールがあると便利だが、保護者からの連絡ツールはTEL、FAX、連絡帳等現状がベストだと思う。 ・請求書等については書類を添付するとスマホ画面では字が小さくいちいち拡大しないと見づらいと思う。 ・連絡帳のミスがないことが前提であるが誤りが生じた場合の差し替えが容易なのは紙だと思う。 ・保護者からのコメントに対する返事も手書きの方が心証がよい。 ・他の情報と混同しやすいメールは危険で、誤送信も心配である ・メールやLINEは見逃しやすく確実性がない

その他 意見・希望

- ・大雨で災害発生の可能性がある日の朝、弊所が開所か判断しなければならないときの決定

の知らせが遅いことがあった。開所ならば8：30にオープンする予定の日に「開ける」と

いう判断が7：50にきた。遅くとも7：00までに判断してほしい。

- ・大学（保育科）に通いながらアルバイトを続けた学生の意見……1年半エルロンで学んだ

ことをしっかりと就職先でも活かしていこうと思う。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	エルロン二日市- 放課後等デイサービス			
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 10 日	～	令和 7年 1 月 15 日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	令和 6 年 1 2 月 15日	～	令和 7年 1 月 15 日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業所向け自己評価作成日	令和6年11 月 15 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動学習をメインに据え、体全体、手先指先を楽しみながら動かすことによって脳への刺激をしっかりと与え、発達を促進を図っている 利用者に合った教材を用意し、無理なくステップアップできるよう企画している	児童指導員、保育士を多く配置し、重度障がいの利用者にはマンツーマンの支援をしている	送迎の時間が長くなって利用者に負担がかからないように、お迎えに行く学校までの距離を原則4キロ以内としている、また一度に複数の学校へお迎えに行くことの無いよう、一往復方式を徹底している。
2	専門職による支援を行っている 臨床心理士によるロールプレイ、SST、心理劇 柔道整復師による側弯、猫背、巻き肩、関節強化等の施術	弊所は帰りのお送りを実施していない。保護者様にお迎えをお願いすることにより、療育の現場を見る機会を多く持っていただき様子を確認していただいている。連絡や伝達事項のずれもない。	災害教育に力を入れ、避難訓練はもちろん、非常食の試食等も試みている さらに地方自治体の災害時要配慮者対策協議会に幹事として役員を参画させている
3	事業所が広く部屋数も多いので、目的に合った使用ができる 玄関をオートキーにし、窓の開閉管理を徹底して安全を図っている 死角ができないように監視カメラを配置している	学校休業日の利用時間を7時までとし、土曜日や夏休みにご家族のご都合に合わせて対応している	地域に阻害されることなく、うまくなじみながら事業が継続できるよう周辺との融和を図っている

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	上記の工夫や試みは、保護者様の利便性に反するものもある。特に帰りのお送りをしないことは、保護者様の意図に合わないようで、利用者の減少につながっている。また学校休業日には来所の際も保護者様のお送りによるので、利便性に沿っているとはいえないかもしれない。	送迎に関してはメリット、デメリットが交錯しており、現状がベストであるとは思っていない。が、職員の労務負担も考慮すると現状を当面は変更できない。	人員を増やすことができれば解決することは多いが、現状は困難である (事業所をカラにしたくない)
2	機能訓練、特にSTが実施できていない	人員の問題で、解決を目指している	機能訓練の分野を強化したいと思っ ている。特にSTによる言語訓練は今後 広げていきたい。
3	「活動の月案を早く出してほしい」という保護者の意見が普段からよくきかれるが、ご希望に添えていない。	弊所は2ヶ月前に利用申込書をお届けし、1か月前の1日から利用の申し込みを受け付ける。活動には人数の把握、可能な内容の検討が必須であり、申し込みによって左右されるものである。したがって申し込み時の月案発表は困難である。	季節行事等はできるだけ利用の傾向を見て発表できるように努力する